

## 「JENESYS2.0」

### 中国大学生訪日団第8陣

訪問日程 平成25年12月15日（日）～12月22日（日）

#### 1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第8陣計60名が、12月15日から12月22日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：関立彤（カン・リットウ）中国日本友好協会秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、大学訪問など交流の場を通じて、日本の大学生や市民との親睦を深めたほか、日本の政治・経済・科学技術・社会・歴史・文化等が体感できるような施設や、地方都市の見学を通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

#### 2 日程

##### 12月15日（日）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

##### 12月16日（月）

皇居二重橋見学、国会議事堂視察、日本大学文理学部訪問・交流、歓迎会

##### 12月17日（火）

外務省訪問・日本産マンガのグローバルマーケティングに関する講義、  
国会議員との懇談、浅草寺見学、長崎県へ移動

##### 12月18日（水）

長崎県政に関する講義、長崎ハウステンボス訪問・次世代エネルギーに関する視察

##### 12月19日（木）

平和公園、孔子廟、長崎港松が枝国際ターミナルと孫文・梅屋庄吉夫妻三人像見学、  
長崎県立大学 シーボルト校訪問・交流

##### 12月20日（金）

島原武家屋敷見学、京都府へ移動、商業施設視察

##### 12月21日（土）

金閣寺見学、日本文化体験（手織り）、大阪府へ移動、松下幸之助歴史館視察、歓送報告会

##### 12月22日（日）

関西国際空港より帰国

3 写真

	
<p>12月16日 皇居二重橋見学（東京都）</p>	<p>12月16日 国会議事堂視察（東京都）</p>
<p>12月16日 参观皇居二重桥（东京都）</p>	<p>12月16日 考察国会议事堂（东京都）</p>
	
<p>12月16日 日本大学文理学部訪問・交流 （東京都）</p>	<p>12月16日 日本大学文理学部訪問・交流 （東京都）</p>
<p>12月16日 日本大学文理学院访问交流 （东京都）</p>	<p>12月16日 日本大学文理学院访问交流 （东京都）</p>
	
<p>12月16日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長(右1)と 交流する団員（東京都）</p>	<p>12月17日 外務省訪問 松井剛 一橋大学商学研究科教授による 日本産マンガのグローバルマーケティング に関する講義（東京都）</p>
<p>12月16日 欢迎会 与日中友好会馆会长江田五月畅谈的 团员们（东京都）</p>	<p>12月17日 访问外务省 听取一桥大学商学院研究科教授松井刚的 “日本漫画的全球营销策略”讲座(东京都)</p>



12月17日 国会議員との懇談（第1グループ、右から）石川博崇 参議院議員、近藤昭一 衆議院議員、竹下亘 衆議院議員（東京都）

12月17日 与国会议员交谈（第1组，从右开始）参议院议员石川博崇，众议院议员近藤昭一，众议院议员竹下亘（東京都）



12月17日 国会議員との懇談（第2グループ、右から）平岡秀夫 前衆議院議員、江田五月 参議院議員、宮本岳志 衆議院議員、平木大作 参議院議員（東京都）

12月17日 与国会议员交谈（第2组，从右开始）原众议院议员平岡秀夫，参议院议员江田五月，众议院议员宮本岳志，参议院议员平木大作（東京都）



12月17日 浅草寺見学（東京都）

12月17日 参观浅草寺（東京都）



12月18日 長崎県政に関する講義（長崎県）

12月18日 长崎县政府讲座（长崎县）



12月18日 訪日団 学生代表挨拶（長崎県）

12月18日 访日団 学生代表致辞（长崎县）



12月18日 長崎ハウステンボス訪問 次世代エネルギーに関する視察（長崎県）

12月18日 访问长崎豪斯登堡主题公园 考察新能源相关项目（长崎县）

	
<p>12月18日 長崎ハウステンボス園内視察 (長崎県)</p>	<p>12月19日 平和公園見学(長崎県)</p>
<p>12月18日 考察長崎豪斯登堡主体公園 (長崎県)</p>	<p>12月19日 参观和平公園(長崎県)</p>
	
<p>12月19日 孔子廟見学(長崎県)</p>	<p>12月19日 長崎港松が枝国際ターミナルと 孫文・梅屋庄吉夫妻三人像見学(長崎県)</p>
<p>12月19日 参观孔廟(長崎県)</p>	<p>12月19日 参观長崎港松枝國際客運碼頭， 孫中山和梅屋庄吉夫妻三人銅像(長崎県)</p>
	
<p>12月19日 長崎県立大学シーボルト校訪問・交流 (長崎県)</p>	<p>12月19日 長崎県立大学シーボルト校訪問・交流 (長崎県)</p>
<p>12月19日 長崎県立大学西博魯特校区訪問交流 (長崎県)</p>	<p>12月19日 長崎県立大学西博魯特校区訪問交流 (長崎県)</p>

	
12月20日 島原武家屋敷見学（長崎県）	12月21日 金閣寺見学（京都府）
12月20日 参观岛原武士家居（长崎县）	12月21日 参观金阁寺（京都府）
	
12月21日 日本文化体験(手織り)（京都府）	12月21日 松下幸之助歴史館 視察(大阪府)
12月21日 体験手工织布（京都府）	12月21日 考察松下幸之助历史馆(大阪府)
	
12月21日 歓送報告会 関立彤団長の挨拶（大阪府）	12月21日 歓送報告会 訪日成果報告（大阪府）
12月21日 欢送报告会 关立彤团长致辞（大阪府）	12月21日 欢送报告会 团员汇报访日成果（大阪府）

#### 4 参加者の感想（抜粋）

○ 今回の活動は、我々若い世代が、お互いの国の社会と経済等について理解し、若者同士の友好を深めるためのものです。今回の活動から刺激を受け、また感動を与えられました。これをきっかけとして、日本社会と文化を、身をもって感じるという扉が開かれたので、日本留学を通して、更に深く日本の社会生活と学生生活を理解することができればと望んでいます。また今回の学校訪問で、自分達と同じような在学中の学生と交流し、私達が日本文化を神秘的と感じるのと同様に、日本の学生も中国文化への好奇心と憧れを持っているのを見たことは、国際交流の重要性を表しています。

○ 今回の訪日活動を通して、日本への理解が更に深まりました。日本の国民は一般的教養が非常に高く、高度に発展した国です。街の道路にはゴミ一つ落ちておらず、人々は礼儀正しいです。また私は、日本の伝統文化に惹きつけられ、島原武家屋敷見学、西陣織会館でのテーブルクロス手織り体験、金閣寺見学、浴衣着を着て日本料理を食べたこと、これらすべてが美しい思い出で、貴重な人生の財産となりました。再度訪問できることを切に願うと同時に、中日友好交流促進に役立つ人物になりたいと思いました。

○ 長崎の気候、京都の古風な趣は、強く印象に残りました。長崎に3日間滞在しましたが、最も心地よい時間を過ごせました。険しい坂、やまない雨、坂道に建つ洋風の小さな家と、長崎は異国情緒あふれる都市ですが、各地の文化を受け入れる力と、長崎の人達の平和への思いが、この都市で親しみを倍にも感じさせ、しばし郷愁を忘れさせられました。

京都は古都として、あちこちに歴史の香が漂っています。碁盤の目の街並み、そこ此処の道の脇にたたずむ神社仏閣は、道の角を曲がれば歴史に出会えるかのようです。急速に現代化が進む今日、京都がそれに応じて自らを変えつつも、歴史文化と共存できているのは、京都の人達の努力によるもので、そこには歴史的厚重感を感じさせます。

私が思うに、日本の大企業は、人と人との関係をととても重視しており、これこそが、日本が経済危機から脱け出し、世界経済大国の一国家となることを支えているものです。このような精神には感動を覚え、畏敬の念を抱きました。落ち着きのない現代人には、まさにこのような一步一步確実に歩むという精神が欠けています。次回もし日本企業について学ぶ機会があれば、多くの時間を割いて、その秘訣を探りたいです。

ここに再び、私達にこのような貴重な機会を与えてくれた中日両国に感謝します。

○ 中国の古い言葉に「万巻の書を読むより万里の道を行け」というものがあります。多くの人知っている「子馬の川渡り」の物語にもあるように、物事の判断は他人の言葉を聞いて信じるのではなく、自身で体験して知るものだということです。

今回の日本訪問での最大の収穫は、日本の大学生と日本留学中の中国大学生との交流の際に得たものです。日本の大学生は日本の未来を代表しており、彼らの友好的なところや親切さが、私達の民族差別への懸念を完全に排除してくれました。私たちは、中日間の緊張が、少しも青少年間の交流に影響を与えることができないことを知り、この友好的な交流は、さらに中日関係の前途を表していました。

日本は、歴史や文化の保護と継承に力を入れています。中国は高度経済発展の過程で、この種の問題を軽視していたので、古い文化を大量に失いました。多くの方面で、中国は日本から学ぶ必要があります。また、異なる層に対して、相互に補うところが多くあります。中日両国の一衣帯水の関係から見ると、両国がもし平和で共にあり、友好外交ができれば、必ずや強い連携となるでしょう。そうなるのと、外に出ずに学校に籠ったり、国内でメディアの偏った言論から情報を得るだけとでは、おのずと違ってくるでしょう。

○ 来日前は、テレビ・メディア・歴史などから、日本に対して偏った評価をしており、非常に非客観的でした。色眼鏡で日本を見ていましたが、来日してみると、日本がどうして急速に発展し、世界大国になることができたのか、それには理由があると分かりました。出勤時の人の流れには秩序があり、急いでいても秩序を保ち、交通規則を遵守し、バスも自家用車も、急いでいるからといってクラクションを鳴らす光景は見かけませんでした。運転手は歩行者に道を譲り、私達に対してどのドライバーもまばゆい微笑みが顔から溢れ、日本が一般的教養の高い国だということを十分に表していました。

教育についても中国とは違いがあり、教育設備が完備されていて、学生が資料を探しやすくするために、基本的にほとんどの内容を揃えています。図書館では、学生がマナーを良く守っており、ブリーフをしてくれた先生は、私達の質問に答えてくれました。日本の学生は私達に親切で、友好的に接してくれ、とても楽しく交流し、根気よく校舎・食堂・図書館を案内し、一つ一つ丁寧に紹介してくれました。

また、国会議員との懇談もありましたが、議員は国民から選出された方なので、国民の声を代表しているということで、多方面の方から話を聞き日本を理解することができました。

両国の関係について、今年は外交関係が始まって以来、最も緊張し、困難な一年といえます。私達はリーダー同士の関係を変えることはできないとしても、新世代の大学生として微力でも尽力し、両国の学生交流を促進していかなければならないと思います。今回の訪日の機会を私たちがとても大切にしているのと同様に、中国留学を希望している日本人学生も多く、いつの日か集えることを期待しています。

○ 今回、日中友好会館の手配により、訪日して見学・参観する機会をいただき、日本のすべてをこの目で

見ることができました。7泊8日の活動で、東京・長崎・大阪・京都と、日本の代表的な4都市を訪問しました。日本の環境、日本人の親切さと温かさ、友好的な長崎、古風な趣の京都、豪華繁栄の東京・大阪と、異なる文化の日本を見ることができ、視野を広げることができました。

日本の大学生との交流では、自国の学生と交流しているような感覚を覚え、私達の好みはこんなにも似ていて、こんなにも話題が豊富で、私達の友情はこれほどまで深いと感じさせるほどで、中日両国が必ずや友好的な間柄で共存していくと、私は確信しました。

長崎県のブリーフを聴講して、独特の自然風景や観光業発展の理由について、よく知ることができました。私達はもっと多くの長所を引き合わせ、絶えず創造刷新し、中国の観光業も、次第に成長させていくべきだと思いました。

また梅屋庄吉と孫文の銅像を見て説明を聞き、見聞きしたことに深く心を打たれました。中国と日本は、かつてこれほどまでに友好的だったのですから、私達がこの美しい関係を守り、共に発展していきましょう。

日本は、科学技術が発達し、伝統文化が発展し、文明の繁栄した国家だと、このような深い印象を私に与えました。

○ 日本語を勉強して10年が経ち、初めての日本訪問で、感動がいっぱいでした。「八王子」「新宿」「浅草」など、教科書の中に頻繁に出てくる言葉ですが、今回、東京の街でこれらを見て、昔習ったことが息を吹き返すような感じになりました。また、「なるほど」という感じもありました。ただの文字ではなく、感情のこもった生きた言葉になりました。親しみでいっぱいです。これが感動した一つです。

もう一つは、日本人の優しさやおもてなしにびっくりしました。来る前に、ずっと日本人の排他性について聞かされていました。そのため、日本へ留学することなど一度も考えたことはありませんでした。もし日本へ来たら、いじめられるかもしれないという心配がありました。しかし、今回の交流を通して、まったくそうではないことが分かりました。道を聞いたりしても、すぐ丁寧に教えてくれて、地図も書いてくれました。排他性など全然感じませんでした。そして、団員の誕生日のために、わざわざ準備してくれるおもてなしにも、とても驚きました。私の誕生日ではありませんが、もう少しで涙が出そうになりました。

わずか1週間ぐらいですが、日本が大好きになりました。もっともっと日本のことを知りたいし、もっともっと日本の姿を見たいです。日本の文化や人情味をもっともっと感じたいです。それから、今回の活動のおかげで、私の夢が見つかりました。将来、私も日中友好のために、力を尽くしたいです。今、通訳の専攻を考えており、夢は同時通訳として日本で中日友好のために活動することです。1年を分けて、4カ月は東京で、4カ月は長崎で、残りの4カ月は京都で活動します。そうしたら、日本の文化や人情味等を存分に感じ取ることができるし、中日友好のためにも力を出せると思います。ほんの少しの力ですが、両国の代々の友好の促進に、でも、私達一人一人が責任を持つべきだと思います。

○ 初日の、成田空港到着時の興奮は、まだぼんやりと記憶に残っています。空港のイミグレーションを通過して目にした、大きな「お帰りなさい」は、温かな気持ちを湧き起こさせました。日本人も外国から帰国するたび、この言葉を目にして、家の温かさのような気持ちを感じるのでしょうか。

ホテルへ向かう途中、NHK ニュースでしか見たことのない景色を見ました。スカイツリー、東京タワー、ディズニーランド。チェックインして日本側からの素敵なプレゼントと的確なスケジュールを目にした時、今回の訪問をとっても好きになりました。

2日目午前には皇居と国会議事堂を見学し、二つの細かな点を印象深く感じました。一つ目は、通訳さんから、天皇は外出の際、外に人が待っているのを見かけたら、車の窓を開けて挨拶をすると聞き、国民と親しくされているのだと思いました。二つ目は、国会議事堂の広間には3人の銅像があり、4人目の場所を空けているのは、政治はまだ改善する必要があるということを表し、激励しているようで、日本のこの点はとても良いと感じました。

日本大学の学生との交流は、更に大変多くの収穫を得たと感じました。交流したグループの学生はとても知的で、中国の風土と人情を良く知っており、夜の歓迎会の後、日本文化と大学生生活も体験させてくれ、現地に溶け込んだように感じました。また、お互いの連絡先を交換して連絡をとり続け、親友になりました。

長崎に着いてから、とても多くのことを知り、見聞を広げ、第二次世界大戦の原爆や孫文と梅屋庄吉の友情等について、たくさんの歴史の話を知りました。同時に、長崎県職員の対応も「朋有り、遠方より来たる。亦樂しからずや。」を感じ、長崎の温泉や日本料理も「よかばい、長崎」と思いました。

この8日間で4都市を巡り、お互いに友情を深めることができ、引率者や日本側の職員にとっても感謝しています。特に、通訳の方にはお世話になりました。お疲れ様でした。もし機会があれば再度訪日したいですし、また日本の大学生も中国に来て、本当の中国を理解してもらえよう希望します。

○ 人生の中にはターニングポイントが数多くあり、無数の分岐点の中には無数のチャンスがありますが、私

にとっては、チャンスをつかめばそれが分岐点となり、そうでなければ、ただ音もなく過ぎていったにすぎません。今回の訪日はまさに、私の人生における貴重なターニングポイントです。

この感想文を書いている時、頭の中には語りたい言葉が多く溢れ出てきましたが、この高ぶった感情を描写するにはどんな言葉でも足りず、気持ちが高ぶったり、回想したりしています。日本に到着した日、日本からの友好的な気持ちと、道に迷ったとしても慌てる必要がないような、温かさを感じました。引率の先生や日本側の先生も、とても親切でした。また、通訳さんの中国語レベルには敬服しました。いろいろな場面で、優しく中国語で対応してくれ、日中両国の密接なつながりを感じました。

食事は、和洋中のさまざまな料理が、各種の食べ物が表現している食文化を体験させてくれました。どの料理にも、お客様への祝福が込められていて、感激して料理を味わいました。

参観でも、以前の参観とは異なる感覚を体験しました。短い8日間の中で、多くの日本文化を体験することができ、本当に多くの収穫を得ることができ、日本の政治、経済、科学技術、伝統文化等が、深く印象に残りました。カメラには美しい思い出が詰まっています。日本の文化など、本当に面白いものが本当にたくさんあり、こんなに多くの豊富な文化を体験するには時間が足りないので、また必ず再訪して、更に詳しく日本文化を体験したいと思います。

最も楽しかったのは、日本の同年代の人達と交流したことで、彼らの生活を感じ取ることができたのは、とても幸運でした。テーマパークの見学では、見たことのない美しい景色を見ることができ、一千万個のイルミネーションが流星のように私達の前途を照らしていて、先生方の親切な引率のもと、美しい異国風情の美しさを感じることができました。

他にも書きたいことが非常にたくさんありますが、長崎で学んだ「よかばい」という言葉は、日本を形容するのにぴったりだと思いました。一番言いたいことは、今回の訪日では、とてもたくさんの収穫をもらい、人生のハンドルを動かされました。懸命に努力して、再度訪問し、このような人生のターニングポイントをつかみたいのです。そして、感謝感激いっぱい一言：心から感謝いたします。「どうも ありがとうございます。」

○ 日本に来られて嬉しく思います。日本に来たら衝撃を受けると思っていたのですが、日本に到着したばかりの時は、そのような感覚は無く、毎日の小さな出来事から、日本の印象が積み重なっていきました。

#### 珍しいと思った所

1. 料理の出し方が中国と違う。中国では量とスピードを重視し、料理を一度に出して、テーブルいっぱいになる。日本の場合は、1品ずつ間隔を空けて出し、テーブルの上には4~6品ほど並べている。
2. 日本のトイレの便座は温熱式で、これは中国にはほとんど無い。
3. 日本人がお辞儀をする回数は、私が思っていた以上に多かった。
4. 扉の裏に扉を固定するものが無く、扉を開けっ放しにできない。
5. 中国人の習慣として、遠くにいる友達を大声で呼んだり、手招きしたりするが、日本人はこのような行為を行わない。
6. バス乗車時には必ず安全ベルトを締め、毎回徹底しており、この点は安全意識を強化された。

#### 日本の良い所

1. サービスが良く、行き届いて、細やかで、スタッフがプロフェッショナルである。
2. 添乗員やガイドはとても真面目で、怠慢なところは少しも見られなかった。
3. 飲み物等がとても自然で、中国のジュースより美味しい。

今回の訪日では、本で知る以外の日本を理解し、日本の現代化と伝統文化を見ることができ、日本の市民の親切さも感じられ、この活動は非常に意義があり、帰国後に思い起こす価値があると感じました。私は自分がこの目で見た日本を、できる限り周囲の人達に伝え、中日交流に微力ながら力を尽くしたいと思います。